

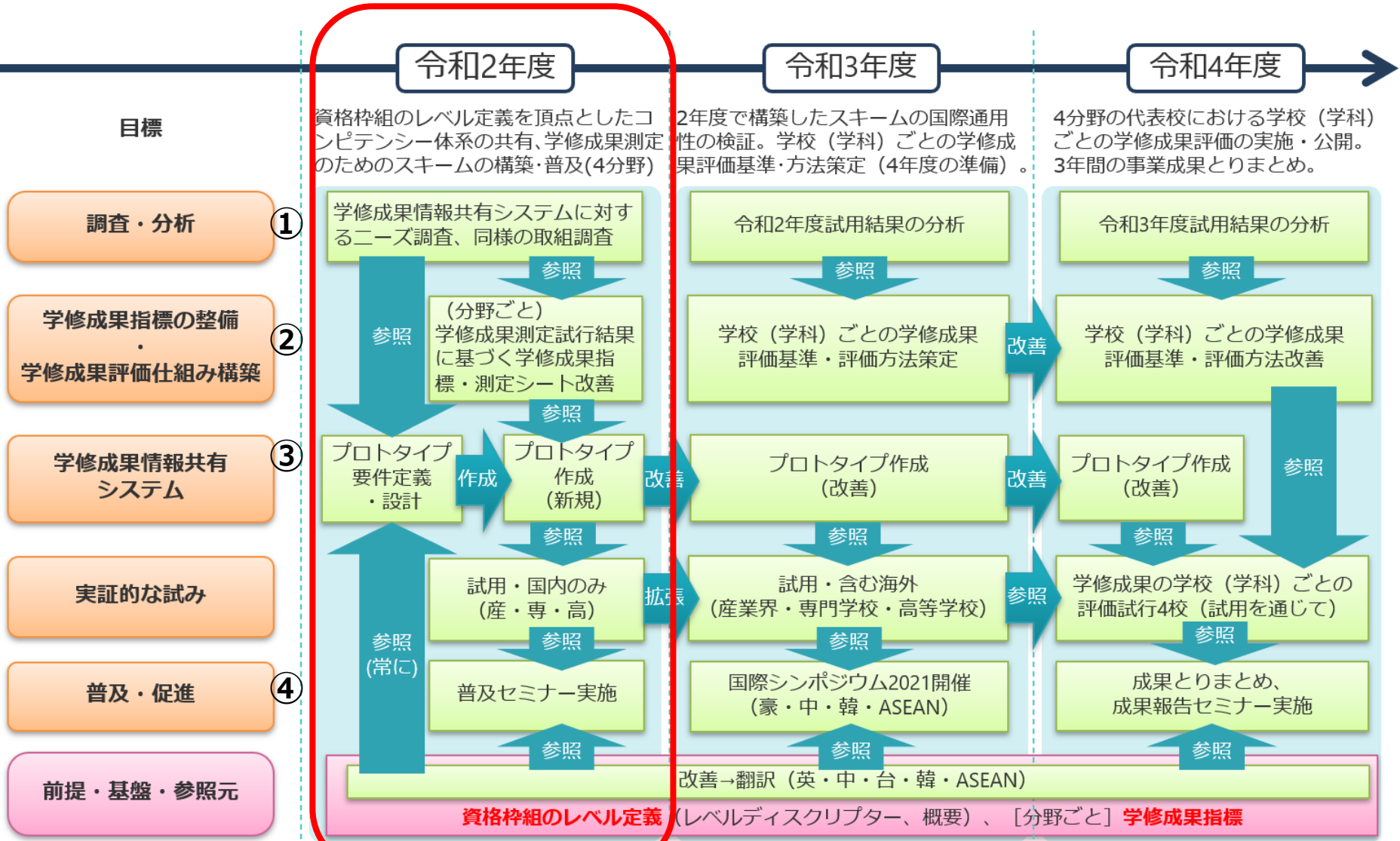
令和2年度成果報告会資料 (コンピテンシー事業)

学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・職業分野別展開と
その有用性の検証

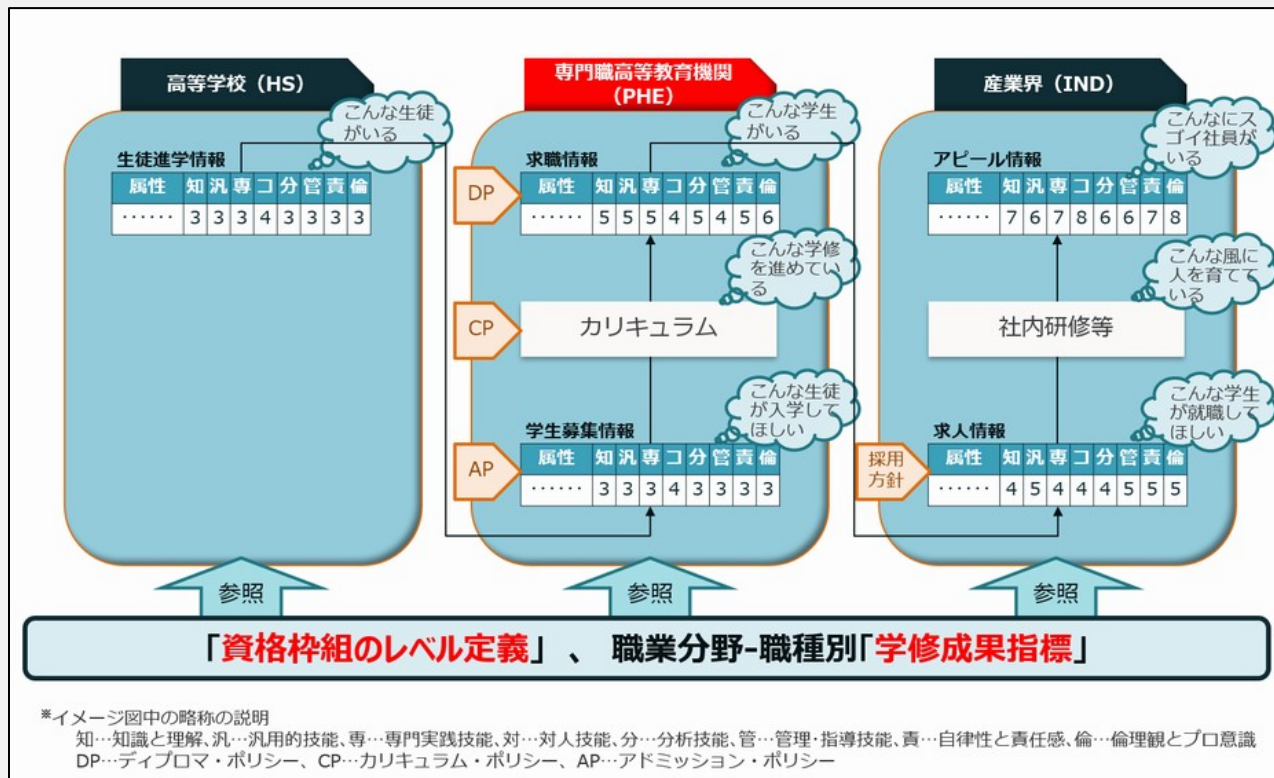
一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2021年2月

事業実施の年次計画



● 学修成果情報共有システム



*イメージ图中的の略称の説明

知…知識と理解、汎…汎用的技能、専…専門実践技能、対…対人技能、分…分析技能、管…管理・指導技能、責…自律性と責任感、倫…倫理観とプロ意識
 DP…ディプロマ・ポリシー、CP…カリキュラム・ポリシー、AP…アドミッション・ポリシー

このシステムは、

- よい人材を獲得したい産業界、
- 産業界が必要とする人材を育成しようとする専門職高等教育機関、
- よい教育機関に人材を送り出したい高等学校

三者が、「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）」にしたがった共通の尺度で学修成果を測定し、その結果を共有することによって、互いにメリットをもたらすことを目指している。

① 学修成果情報共有システムに関するニーズ調査

ニーズ調査を実施

● 目的

- ✓ 多くの主体が活用できる情報システム構築の参考とする
- ✓ システムの開発・運用の仕様決定の参考とする
- ✓ 学修成果指標の検証(産業界ニーズと専門学校の卒業レベルとの一致状況)

● 対象：4分野の産業界および専門学校

	美容分野	ゲーム・CG分野	動物分野	土木・建築分野	計
企業	24	145	9	15	193
専門学校	13	39	7	26	85
計	37	184	16	41	278

● 方法

- ✓ 郵送によるアンケート依頼
- ✓ 回答用紙に記入、またはExcel入力後メール送信

● 回答数

	美容分野	ゲーム・CG分野	動物分野	土木・建築分野	計
企業	6	8	7	6	27
専門学校	4	6	5	8	23
計	10	14	12	14	50

● アンケート項目

● 人材特性

- ✓ 採用時、何をどれくらい重視？(産業界)
- ✓ 卒業時の育成目標は何をどれくらい重視？(専門学校)

● エビデンス

- ✓ 学修成果のエビデンスとして何を求めるか(産業界)
- ✓ 学修成果のエビデンスとして何を提供するか(専門学校)

● 運用面

- ✓ セキュリティ(プライバシー保護・技術の観点から)

● 学修成果情報共有システムについて

- ✓ 期待すること(産業界、専門学校)

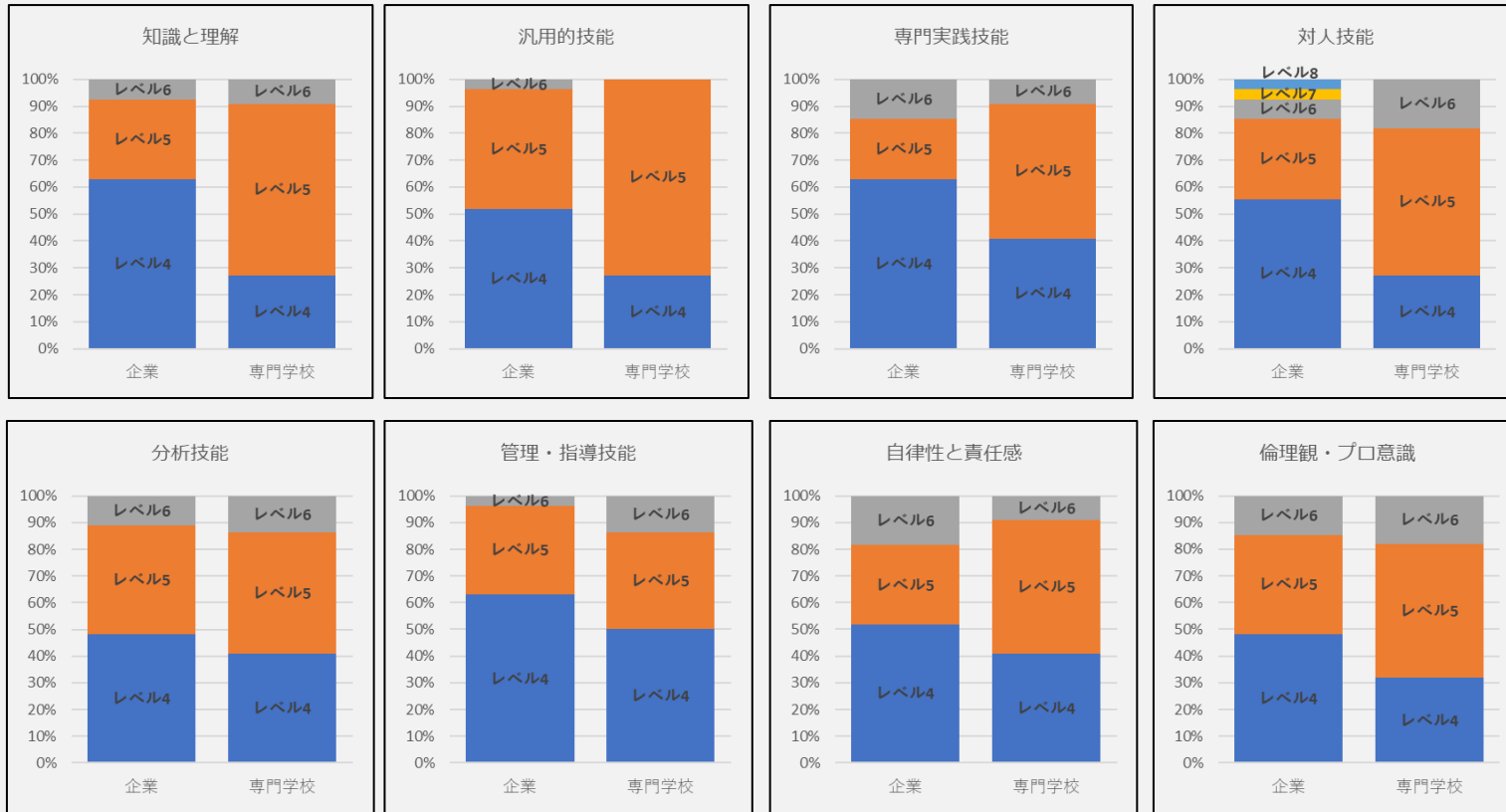
● 資格枠組のレベル定義、学修成果指標

- ✓ これらに対する印象、評価、役立ち
- ✓ 項目やレベルの妥当性
- ✓ その他ご意見

ニーズ調査の回答

● 人材特性について

産業界ニーズと専門学校の卒業レベルとの一致状況を人材特性一つひとつについて検証する



産業界はレベル4、専門学校はレベル5が多い

ニーズ調査の回答

● エビデンスについて

産業界が求めるエビデンスと専門学校が提供できるエビデンスを比較する

その他として挙げられていたものは以下の通り

知識と理解	企業	専門学校
カリキュラム	15	19
教員のコメント	9	8
研究レポート	6	1
受賞・表彰	5	6
成績表	20	14
資格・免許	16	16
作品	10	10
汎用的技能	企業	専門学校
カリキュラム	13	17
教員のコメント	8	8
研究レポート	11	2
受賞・表彰	4	5
成績表	17	15
資格・免許	17	11
作品	9	11
特技(ITや語学など)	7	3
専門実践技能	企業	専門学校
カリキュラム	11	17
教員のコメント	8	10
実習レポート	9	6
受賞・表彰	5	9
成績表	18	13
資格・免許	12	12
作品	11	12
インターンシップ記録	9	9

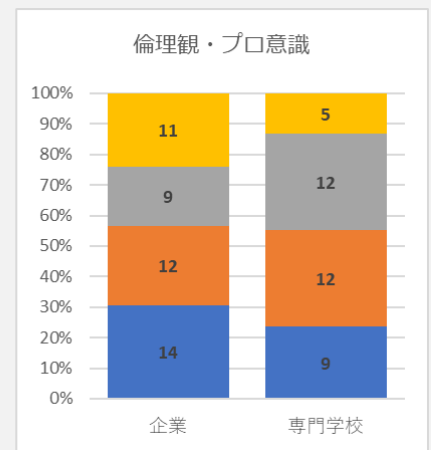
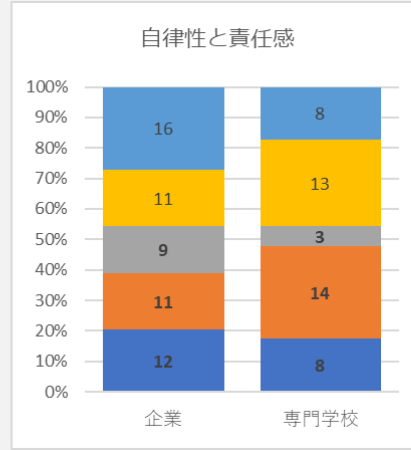
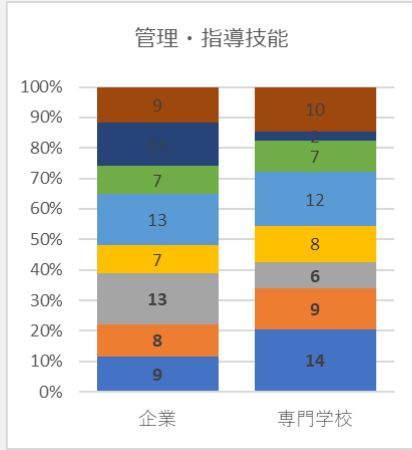
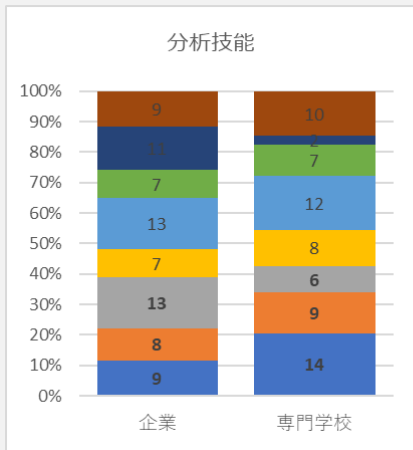
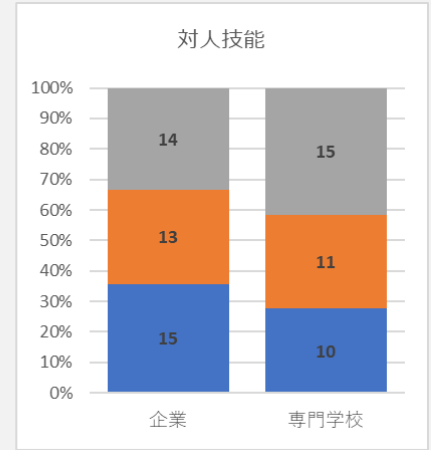
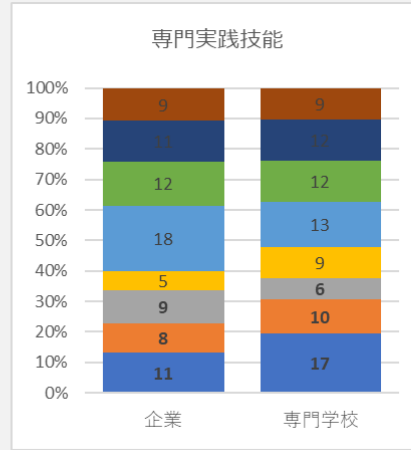
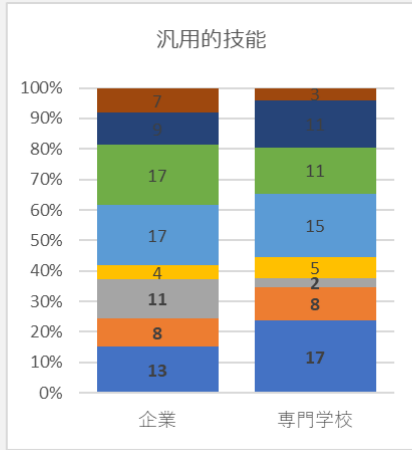
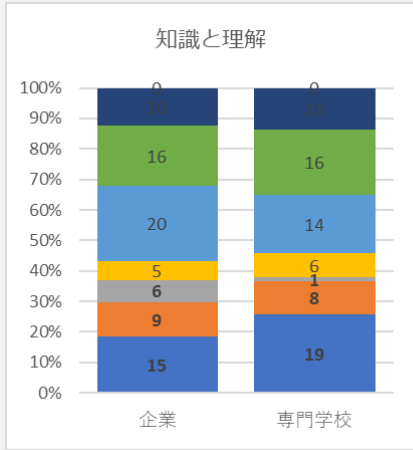
対人技能	企業	専門学校
事例	15	10
教員のコメント	13	11
インターンシップ記録	14	15
分析技能	企業	専門学校
カリキュラム	9	14
教員のコメント	8	9
実習レポート	13	6
事例	7	8
成績表	13	12
資格・免許	7	7
研究レポート	11	2
インターンシップ記録	9	10
管理・指導技能	企業	専門学校
事例	12	10
教員のコメント	13	13
インターンシップ記録	10	12
自律性と責任感	企業	専門学校
事例	12	8
教員のコメント	11	14
企画書	9	3
インターンシップ記録	11	13
課外活動	16	8
倫理観・プロ意識	企業	専門学校
事例	14	9
教員のコメント	12	12
インターンシップ記録	9	12
クラス活動	11	5

知識と理解	企業	-
	専門学校	課題（問題発見課題解決型）・プロジェクトの成果物
汎用的技能	企業	小論文（採用検討時の課題としています）
	専門学校	課題（問題発見課題解決型）・プロジェクトなどの取り組みや成果物
専門実践技能	企業	実習
	専門学校	防災・避難訓練 授業や学校生活などの取り組みや成果物
対人技能	企業	性格診断テスト等をもとに自己を客観視した記述 面接で判断しています 面接 実習
	専門学校	授業や学校生活（部活、委員会含む）および学外活動などの取り組み
分析技能	企業	小論文（採用検討時の課題としています）
	専門学校	授業や学校生活などの取り組みや成果物
管理・指導技能	企業	面接で判断しています 自己管理、遅刻や欠席等
	専門学校	授業や学校生活などの取り組みや成果物
自律性と責任感	企業	小論文 面接で判断しています 面接
	専門学校	クラス活動 授業や学校生活などの取り組みや成果物
倫理観・プロ意識	企業	作文、論文等、本人が書いたもの 小論文・履歴書に記載するような職業意識 面接で判断しています 課外活動 面接
	専門学校	ビューティショー 授業や学校生活などの取り組みや成果物 現場見学レポート

ニーズ調査の回答

● エビデンスについて (グラフ)

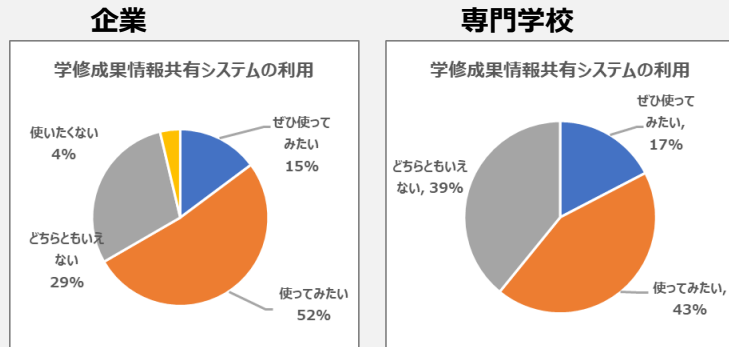
産業界が求めるエビデンスと専門学校が提供できるエビデンスは大きくは異なる



ニーズ調査の回答

● 学修成果情報共有システムについて

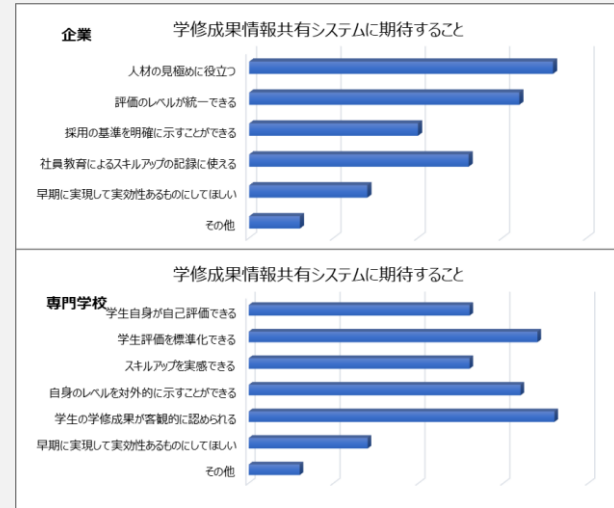
- 企業には専門学校生の採用時に利用したいか、専門学校には進路指導や学生の学修成果の記録などに利用したいかを調査



● 学習成果情報共有システムのセキュリティ

- ✓ セキュリティは万全の対策をお願いしたい
- ✓ 不正アクセスにより情報改ざん等があってはならないので高いセキュリティを希望する
- ✓ 成績表（成績証明書）や履歴書などの情報は共有システム上には載せにくいのではないかと
- ✓ 不正アクセス(アクセス権を含む)情報漏洩に関する制御が必要
- ✓ 学習成果のエビデンスに「成績表」を提示したほうが良いかと考えたが、プライバシーの観点に不安がある
- ✓ これを企業に提出する場合には改ざんが容易にできないような対策が必要と考える。
- ✓ 教育機関からこのデータが持ち出される際には学校、本人、企業以外は閲覧できない資料とするべきである
- ✓ 個人情報保護の観点から、管理を徹底してほしい
- ✓ 個人の評価が漏出しないシステムが必要

● 学習成果情報共有システムに期待すること



◆ その他ご意見

企業

- ✓ 教育機関での達成度としての意味合いであれば、成績評価基準として取り上げやすいようカリキュラムを整え、指導方法も統一を図る必要がある
- ✓ 専門学校でどんな勉強をしたのかわかりやすくなる
- ✓ 客観的に評価できるシステムであってほしい

専門学校

- ✓ 学校と理美容サロンでシステムを共有することで、今成すべきことが明確となり、休学・退学や早期離職の抑止効果が期待できる
- ✓ 専門学校と美容業界との間で『学修成果指標』において、連携が深まることに期待する
- ✓ ゲーム業界が求める人材の専門性の最低ラインの知識・技術の統一見解をまとめ、その内容をまとめた教科書に沿って学生を指導する時代が来ることを願う

資格枠組のレベル定義、学修成果指標、ガイドラインについて、印象や評価、役立ちそうか、項目やレベルの妥当性、ご意見など

◆企業

好意的意見

- ✓ ITに関する知識は今後必須であるため、各学校において教育内容を充実させていただきたい
- ✓ 勉強不足でこのようなものがある事をこのアンケートで初めて知った。今後も継続して勉強していきたい
- ✓ 職域、職能のマッチング性が高まり、人材の長期雇用に続いていくと考えられるので大いに期待する
- ✓ 項目が細かく定義されており、採用時の判断材料としてとても役立ちそうだ
- ✓ レベルの枠組ができ、客観的にも評価できることは良いと思う

課題・懸念事項

- ✓ 統一した学修成果指標を効率的に評価するためには、専門学校における教員の資質向上と、統一した指導要領の整備が必要ではないか
- ✓ 採用する企業においては個々の学生の性格傾向や人間性を重視する場合もある。対人技能、自律性、責任感、職業倫理など性格傾向の影響を強く受ける
- ✓ 教育機関での学習の中で看護対象だけでなく学生自身を客観視するような指導を教員が意識して行うことが必要と考える
- ✓ レベル4の段階でスキルがかなり高いように思われるため、指標として適切かどうか、やや疑問が残る。もう少し低いレベルの指標も追加されると良い
- ✓ 評価をどのように活用し、社会的評価にまで持っていけるかが課題だ
- ✓ レベル定義を4分野統一で設定、評価することには違和感がある
- ✓ 学生迄の横の人間関係から縦の関係(特に年長者)が主になり、対応出来ない事が多い
- ✓ インターシップでは無く対価のあるアルバイトを積極的に美容室で行う事で学生時代からOJTの能力開発が可能と考えられる
- ✓ 一方で事業者側がアルバイト=入社という制度と勘違いしない様、枠組みをしっかりと行わないと生徒に無用のプレッシャーが係ると思われる
- ✓ 評価基準を参加校で統一させるのが難しいように感じる。具体性も必要かと思う
- ✓ 学修成果指標のレベル6の内容については、レベル5に分類しても良いのではないかとと思われるものが散見された
- ✓ テキストによる情報量がかなり多いので、理解に時間がかかるのが課題だと思う。情報を共有し易くする為の工夫は今後必要である

◆専門学校

好意的意見

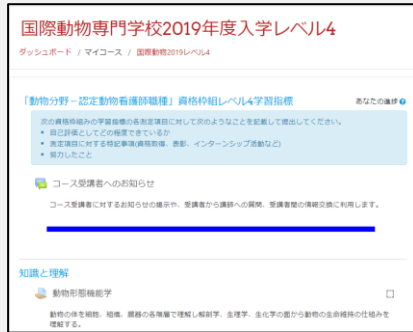
- ✓ 将来的には有効なシステムであると思う
- ✓ 弊社がお預かりしている求人企業にも取り組みを伝えたい
- ✓ 今まで、「人間力やコミ力」といった言葉で表現されていた、学校における生活指導となる「対人技能」「分析技能」が明確に数値化されていて感心した
- ✓ さらに、細部まで具体化していくことで、より役立つシステムに進化できると思われる。スタートアップとしては十分な内容で、ぜひ活用させていただきたい
- ✓ 概ね妥当であると思う
- ✓ 国際通用性のある『資格枠組のレベル定義』、『学修成果指標』の策定により、学生自身の人材レベルが明確となり、学校内部の質を高めるうえでも非常に重要であると思う
- ✓ 詳細に構成されており非常に有効なツールと受け止めてい
- ✓ 細かくレベル分けされていて評価指標には役立ちそうだ

課題・懸念事項

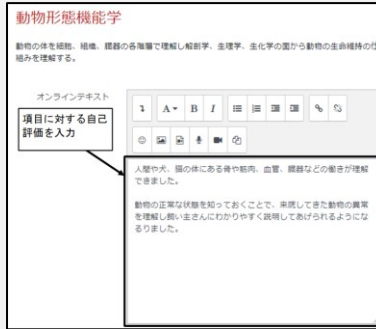
- ✓ 各学校の特色が無くならないか疑問を感じる
- ✓ 一つの項目で複数の内容に対する評価内容があるため、評価が複数に分かれてしまうことがある。(数値の判断に迷うことが多い)。エビデンスとしての適性が難しい
- ✓ システムの構築には期待するが、全体的にレベルが高く本校がついていけるのかが懸念である
- ✓ 学修成果を判断する共通のツールがないので判断しにくい。レベル定義を読むと「なるほど」と思えるものばかりだが、そのためにどのように育てていくかが難しいように思う
- ✓ 資料3：指標として、資格試験取得の可否は明確な判断ができるが、その他の指標については、項目・内容については各校の判断など曖昧となりやすく、更なる詳細等の検討が必要と考える
- ✓ 成果の指標が抽象的で幅が広いためゲーム分野のほとんどの学校が5にしか該当しないように思える
- ✓ これらを読み解いて、誰が評価しても同じになることは困難と思われる。しかし、そこに近づけていかないと評価の客観性が失われる。レベルが上がるほど、具体的な指標が示せるかがポイントとなる
- ✓ 評価を行うにあたり、評価者による解釈のブレをどこまで抑えられるかが気になる。具体的な例と一緒に表現されているとわかりやすいと思われる

● 学修成果情報共有システムのプロトタイプ

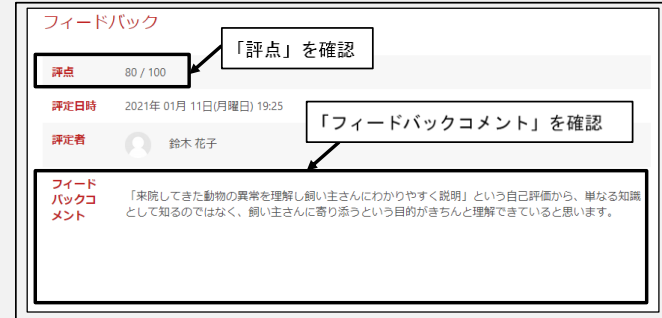
- ✓ プロトタイプ作成済み



学生が自己評価を入力する画面



学生が教員からのフィードバックを見る画面



● 学修成果情報共有システムの試用

- ✓ 試用進行中
- ✓ 4分野のうち、動物分野の専門学校に試用を依頼

このシステムでの学生の自己評価は、点数をつけるのではなく、自分が何を学んで何を得たかなど、具体的に文章やその他エビデンスを添えて登録する。

教員も、学生の提出した自己評価を見て、点数とその評価を文章でフィードバックする。

このように学生と教員の負担が大きいと、今回の試用は、動物分野の2校の専門学校で、1・2年生の学生各5名とその担当教員に試用をお願いした。

コロナ禍の影響で休校ということもあり、すべての試用データがそろってはいないが、このシステムの試用が大変だったとの学生、教員の意見が届いている。

しかし、学生の自己評価や、教員のフィードバックをみると、真剣に取り組んでいた様子が十分に伝わる内容であった。

専門学校からも、学生が自身の履修の振り返りをする上でも大変有意義なことであった、また、項目（補足説明）を読み込む力、文章を記入する力も十分に必要で、その能力を備えなければならない意味でも有意義であった、との感想をいただいた。

また、実施方法についても、一度にすべての項目を自己評価することは、時間的にも無理なので、一項目ずつ教科の中で行うことであると負担が大きい、との意見もいただいた。

● 資格枠組、学修成果指標の普及

- 「資格枠組のレベル定義」を頂点としたコンピテンシー体系を、産業界、専門職高等教育機関、高等学校等と共有し、共通の指標で学修成果を測定する
- 国際通用性のある「資格枠組のレベル定義」で、人材の移動可能性を促進する

● セミナー開催

- ✓ 東京、大阪でセミナー開催予定だったが、コロナ禍の影響で会場を設定しての開催は難しいため断念

● 方法

- ✓ オンライン開催

● 目的

- ✓ コンピテンシー事業、ポートレート事業の認知と成果普及

● 時期・方法等

- ✓ 令和3年2月22日(月) 13:30~17:00
オンラインセミナー 定員100名

● 内容

- ✓ プログラム参照

● 参加申込者

- ✓ 現在、約50名

令和2年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進


成果報告会・セミナー

令和3年 **2.22** (月) 13:30~17:00 **オンライン** **参加費:無料**

【敬称略】

プログラム

13:30~13:35 開 会 (オンライン操作説明)	事務局
13:35~14:35 学修成果を主題とする質保証:リカレント教育が最重要テーマ 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事	川口 昭彦
14:35~15:10 コンピテンシー事業 成果報告 ポートレート事業 成果報告 ポートレートシステム仕様解説 FD/SD 事業 成果報告	事務局
15:10~15:20 休 憩	
15:20~16:20 東京規約とNIC、資格枠組の国際的動向 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 准教授	野田 文香
16:20~16:35 質疑応答	
16:35~16:55 講 評 文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室	河村 和彦
16:55~17:00 事務局からの連絡	事務局



一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

<http://qaphe.com/>
当機構は文部科学大臣の認証を受けた専門職大学院の第三者評価機関(デュアルビジネス分野)です